

20 意見文「^{いけんぶん}早期教育^{そうききょういく}の是非^{ぜひ}」／「^{わたくし}私の意見^{いけん}」

次の文は、新聞の社説です。

「自分の子どもを少しでもよくしたい」とどんな親でも思うだろう。親たちにとって、「子どもの脳は無限の可能性を持っているから、早い時期に教育を始めれば、どんな子どもも、素晴らしい能力を獲得することができる」という主張は、大変魅力的である。そこで、2歳や3歳の子どもに字を教えるビジネスや、外国語や楽器演奏などの訓練をするビジネスが現れ、現在大変人気がある。しかし、早期教育は、本当に子どもにとっていいのだろうか。

「能力は、一番よく育つ時期があって、その時期を過ぎるとあまり育たなくなるから、なるべく早く教えてどんどん訓練した方がいい」という考え方は、1960年代以降のアメリカで非常に人気があった。この時代には、成績が大変よい子どもは「飛び級」をしたので、16歳で大学を卒業した者もいた。しかし、20年ぐらいの間に飛び級をした子どもたちを調査すると、そういう子どもたちには、心理的なストレスが非常に大きいという問題があることがわかった。飛び級をした子どもたちは、まわりの友だちとの間に精神面でギャップがあって、背伸びをしなければならぬ。そのために、思春期を過ぎた頃から、神経症になったり、暴力に走ったりするようになって、結局、勉強も続けられなくなった場合が多いのである。勉強がよくできても、精神的に安定していなければ、その人は幸福ではない。今は、飛び級をする人はほとんどいなくなった。

確かに、早く字が読めるようになった子どもは、小学校に入ったとき、成績がいい。最初の段階で自分に自信を持つことができるのはいいことであるかもしれない。しかし、6歳の子どもはひらがなを1週間で覚えられるが、2歳半の子どもは半年から1年もかかる。こんなに小さいときに、こんなに時間をかけて人より早く覚えることが、本当に必要だろうか。早期教育のプログラムに申し込む前に、親はもう一度よく考えてみる必要がある。

*精神面 ^{せいしんめん} mental aspect

*神経症 ^{しんけいしょう} neurosis

*思春期 ^{ししゅんき} adolescence

*暴力 ^{ほうりょく} violence

5

10

15

20

25